



▲ニセコ町での説明

視察後の感想

「事業評価を行うことを通して、一般施策の見直し・廃止等ができ、それによりひねり出した財源を再構築枠として、特定重点施策事業等に充当している」「再構築枠の目標を、年度予算額の一般施策事業費の10%以上とし、再構築枠の2%を知事主導の重点施策に振り向けている」「評価の結果は次年度の予算編成に反映させる。平成15年度では、知事評価終了段階での再構築枠は百十八億円となり、平成十六年度の特定重点施策事業費や各実施機関の新規・拡充予算要求に充当するほか、不足財源にも充当している」等の効果を感じることができました。

北海道虻田郡ニセコ町
「情報公開について」

町の概要

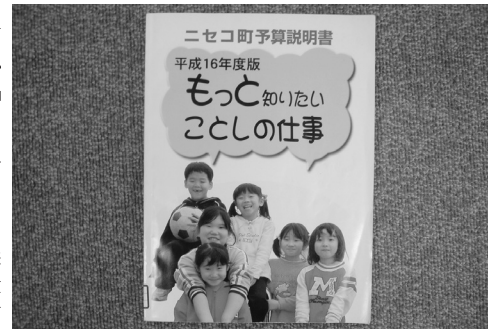
札幌から西へ約百キロメートルに位置し、国立公園羊蹄山、国立公園ニセコアンヌプリの山岳に囲まれた盆地で、主力産業は農業です。人口は四千六百三人、千九百五十六世帯で、職員数は九十二人です。

これまで

ニセコ町は、徹底した情報公開と住民参加を進めている自治体として注目を集めています。町づくりの基本に「町民と行政の情報共有」「行政の透明性の確保」を掲げています。プライバシーにかかわること以外は、全て開示情報というところえ方をしています。役場の幹部会議も公開されている。町民はいつでもこのような会議に立ち会うことができます。

○まちづくりトーク

町民との日常的なコミュニケーションの場として始められました。住民が五人以上集まれば、希望する時間・場所に、町長や担当職員が出向いて気軽に懇談する集まりで、



▲もっと知りたいことしの仕事

後に、「まちづくり懇談会」「まちづくり町民講座」「こんばんは町長室」へと多様化していきました。このような場で、町の課題や町民の疑問に対し、行政情報の提供と説明に力を注いでいます。

○もっと知りたいことしの仕事

わかりやすく町政情報を伝えるための新しい手段として作られた予算説明書で、毎年全世帯に配付されています。基金は貯金に、起債は借金にというように、行政用語が日常用語に置き換えられています。事業の内容説明と、国・道・町の負担割合、期間や場所、町の借金の詳細などが明らかにされていて、ニセコ町の情報共有のシンボルとして広く知られています。

○事業別住民検討会議

計画が白紙の段階から町民に意見を出してもらい、事業計画をつくりあげていく公開の会議で、誰でも自由に参加できます。建設設計は、入札に参加した事業者が設計や見積もりを住民に説明し、選考会にも住民が参加し、公開で決められていきます。「ビュープラザ道の駅」をはじめ、いくつもの重要事業が、この手法で進められています。

○文書管理システム

全ての公文書を共通のロッカーに保管し、誰でも検索できるようにしました。住民からの公開請求にその場で迅速に対応できるようにしました。このシステムはホームページ上にも掲載されていて、どのような公文書がいつまで保管されているかなど、誰でも検索することができます。

視察後の感想

今回の視察では、全国から注目されているニセコ町の情報公開の具体例を詳しく学ぶことができました。羽村市が、情報公開から情報共有へとさらに進んでいくように、視察の成果を今後の議会活動に生かしていきたいと思えます。

総務委員会委員

- 委員長 中原 雅之
- 副委員長 瀧島 愛夫
- 委員 水野 義裕
- 委員 並木 正志
- 委員 門間 淑子
- 委員 桑原 寿
- 委員 秋山 猛

経済委員会

宮城県松島町

「中心市街地の整備改善および商業等活性化の一体的推進について」

はじめに

今、羽村市では、道路のバリアフリー化、中心市街地活性化、コミュニティバスの運行などの事業が進行しています。

そこで、中心市街地の整備改善および商業等活性化の一体的推進について、視察してきました。

松島町は、仙台市から電車で二十分、車で四十分の距離にあります。人口は、一万七千人、面積は五十四平方キロメートル、産業は、観光を中心とした商業のほか、農業、



漁業、工業も発達しています。

整備改善の進め方

計画は、松島海岸から離れた、旧来からの商店街で進められています。

「町民が愛する参加型のまちづくり」をコンセプトに、住民自らが計画の初期段階から参加・提案する形ですすめられました。

道路整備事業

計画地域の道路の幅員は十メートル、両側一・五メートルの歩道はあっても、傾斜しており、電柱等の障害物で、歩行者に危険な状態でした。

道路整備にあたっては、実際の道路を使用して、社会実験を行い、その結果をもとに整備計画を立てました。

実験の結果、あえて車がス

ピードを出せないよう、車道を狭め、歩道を広げました。

また、歩道と車道の段差をなくし、その境には、着脱式のポールをたて、電柱等は、すべて路肩に寄せ、街路樹は植えませんでした。

この整備によって、道路幅員は変えずに、買い物しやすい商店街になりました。

商業等活性化

松島海岸駅前の空き店舗を活用推進するため、家賃の二分の一と改装費の三分の二を町が補助する規則を設けました。

また、観光客に「また来たい」と思ってもらえるよう接遇向上委員会を作り、観光に携わる従業員に研修制度を導入しているそうです。

終わりに

松島町では施策の一体的推進のために、観光客も従来からの商店街を利用できるように町内の循環バスのルートを変更しました。

羽村市においても、コミュニティバスが、商店街と住居地域を結び、活力ある商店街を復活させることができるように思いました。



▲大郷ふるさとプラザの様子

宮城県大郷町（おおさとちよつ）

「大郷ふるさと資源再生事業について」

はじめに

大郷町は、宮城県のほぼ中央に位置し、仙台から車で約三十分、松島から十分の距離にあります。

平成十六年六月に「大郷ふるさと資源再生計画」が内閣府から認定されました。

事業の概要

大郷町アグリビジネス構想の実現に向けて、その拠点施設として「大郷ふるさとプラザ物産館」と「開発センター」を地域振興公社（町が七十％出資）に委託し、一体的な企

業経営を行なうとともに、農産物直売所の拡充、体験交流型販売の創設、新たな特産品開発を推進しようとするものです。

アグリビジネス構想

農業をあらゆる産業に結びつけた①自立型農業の確立②消費者ニーズに対応した農産物の計画的な安定生産③消費者への新たな流通システムの構築を目指したグリーンツーリズムの推進

大郷ふるさとプラザ物産館

「道の駅」として設置されたもので、農産物直売所のほかに、おみやげ品売り場やレストランもあります。

直売所では、大郷町が誇るブランド商品が安く売られていました。

直売所の大きさは、羽村市の農産物直売所より少し狭いぐらいの規模でした。

終わりに

羽村市でも、都市型農業や個人ブランドに対する需要は大きく伸びていて、農業の重要性はますます大きくなっています。大郷町のさまざまなお試みも参考になると感じました。

仙台市（仙台市産業振興事業団）

「コミュニティビジネス起業家支援プロジェクトについて」

はじめに

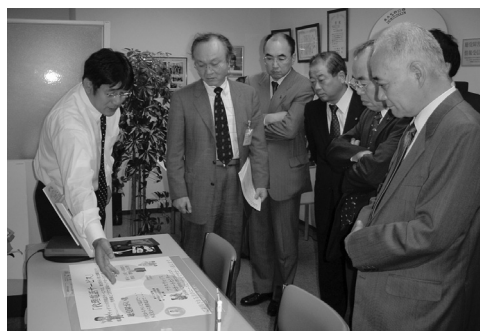
コミュニティビジネスは、きちんとした定義がまだ固まっていません。

多くの場合、地域の課題等を住民が主体となって、ビジネスの手法をとりながら解決しようとするものです。

具体的には、高齢者や働く母親などが望んでいるサービ

事業の概要

仙台市産業開発振興事業団では、コミュニティビジネス



▲事業化されたコミュニティビジネスの説明